



土木

才鉢トンネルが貫通しました



2020 Olympic Year
福島県は野球・ソフトボールの
開催都市です



令和元年12月17日、「才鉢トンネル」(主要地方道いわき石川線)の貫通式が行われました。

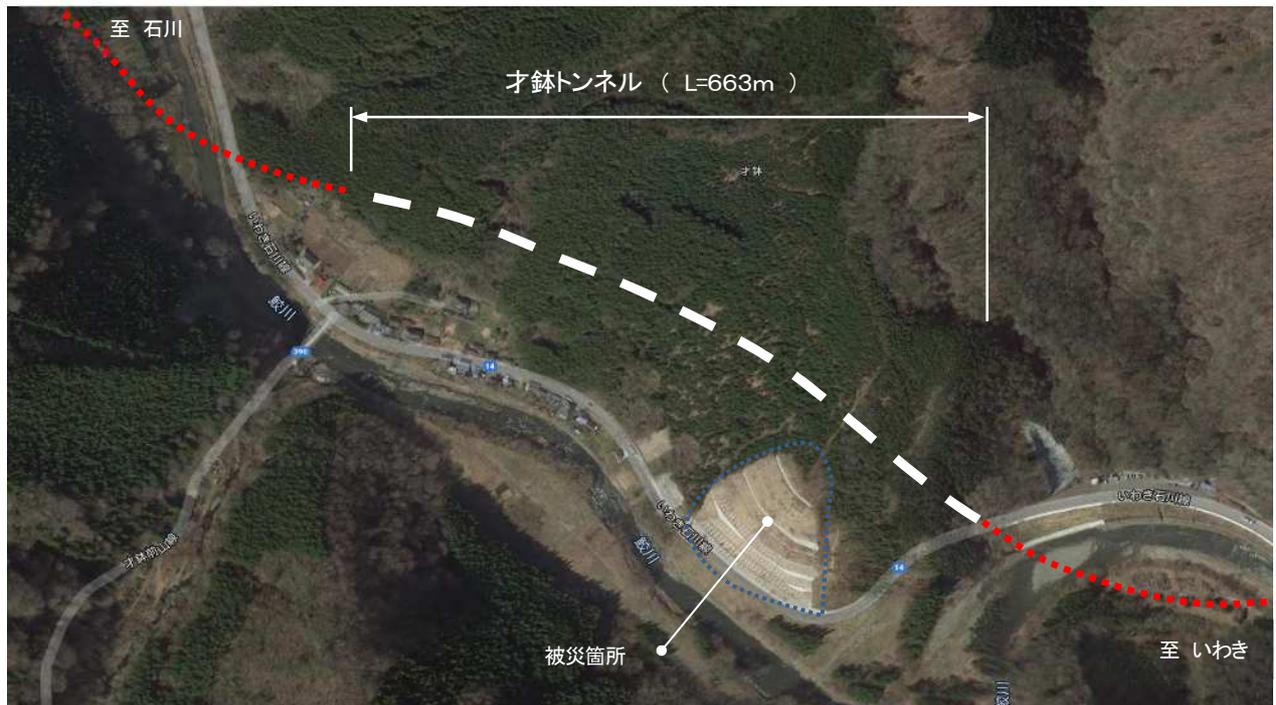
「才鉢トンネル」は、いわき石川線才鉢工区(全体延長L=3.18km)の一部であり、地域の重要な生活道路であるとともに、いわき市小名浜港から、中通りの物流と地域間交流を結ぶ幹線道路として整備が進められています。

同工区は、東日本大震災の余震に伴う地滑りや豪雨に伴う法面の崩落で、度重なる通行止めを余儀なくされるなど交通に支障をきたしており、本トンネルの整備によって災害に強い安全・安心な交通の確保と共に良好なネットワーク構築が大きく前進することが期待されます。

当機構は、積算業務を受託するとともにトンネル工事の技術的課題について検討するトンネル専門技術委員会の委員を務めました。

今後トンネル事業に係る積算・工事管理等を支援してまいりますので、どうぞお気軽にお問い合わせください。

(土木1課 TEL 024-522-5122)



南相馬市復興工業団地（第2期）の造成工事が竣工しました

南相馬市原町区渋佐・萱浜地区で整備が進められている復興工業団地(第2期)造成工事は、当機構で積算及び現場管理を行い、令和元年8月に竣工しました。

復興工業団地の造成は第1期工事が完了し、全体敷地面積が約70haのうち、第2期造成工事の施工面積は約38haになります。平成28年度から着工して、令和元年度完成を迎えました。復興計画の土地利用方針に沿って整備され、震災で失われた雇用の確保と新規雇用の創出に寄与するものと期待されています。



造成工事の土工は、ICT(情報通信技術)を用いた情報化施工のため、現場管理には高度な技術と品質確保が求められました。

当機構は、今後も復興事業の計画・調査・測量・設計・積算・工事管理を支援してまいります。

(土木2課 TEL 024-522-3095)

橋 梁

横断歩道橋の点検を実施しています

横断歩道橋は、道路橋とは構造が異なり、架橋構造に加え階段部を有していることから、横断歩道橋定期点検要領が定められています。

なお、平成26年の道路法施行規則の一部改正から、橋梁やトンネル等と同様に5年に一度の近接目視点検が義務付けられています。

今回点検をした横断歩道橋は、信号機のある交差点内に位置しており、所轄の警察署と点検時の交通規制方法について協議した結果、信号機点滅による片側通行規制にすることで、道路使用許可を得ることができました。

これら橋梁以外のインフラ点検についても関係機関との協議を密に行い、利用者並びに点検者の安全に配慮した点検を行い、インフラの安全性確保に努めてまいります。



(構造保全課 TEL 024-597-7063)

「一歩ずつ着実に 復興の歩みを」

総務部付管理官
(大熊町派遣)

菅野 完治



大熊町復興事業課 技術主幹 菅野完治。
平成31年4月から支援機構の建築職員として大熊町に出向しています。東日本大震災から9年目に入り、一部が避難指示解除された大熊町では、様々なプロジェクトを遂行するべく町の復興に取り組んでおり、その一端を担っています。

趣味は家庭菜園。週日は農業の専門誌を読み、冬の週末は剪定作業。切り方ひとつで植物の生育が変わるのも魅力のひとつのこと。

■ 困難をやりがいに変える

4月、新庁舎近くに整備する商業施設等の再公募に向けて、検証を進めていくことが今回の出向で印象に残っているプロジェクトである。

「予定した日程が延びると、施設の完成を待ち望んでいた人にも迷惑がかかってしまう。時間がない中で、職員・関係者全員で業務にあたったことです。」

そこで、大切にしたいことは話し合いながら、一つ一つ課題をこなしていくことだった。普段から、人の気持ちを動かすことは難しいが、双方の状況を理解した後に生まれる協力こそ業務を円滑に進めていくための鍵だと思っている。

困難だと思い、投げ出してしまうことは容易だが、何度も困難に当たりながら、やりがいに変わっていくことの繰り返し。これがなかなか難しい。

けれども「ありがとう」の一言を励みにしてまた仕事の原動力として、**困難をやりがいに変えて**いきたいと思っている。

支援機構では現場監理中心の業務だったが、大熊町では現場監理に加え、計画や設計などの業務にも従事している。

■ 家族の支えと愛妻弁当

単身赴任中の今は、野菜を意識して摂取するようにしている。自宅は福島市内だが、週末自宅に帰った際、1週間分の食事を保冷バッグに入れてもらい、持ち帰った食事は野菜を多めに詰めなおし、弁当にして持参する。間接的な**愛妻弁当**だ。

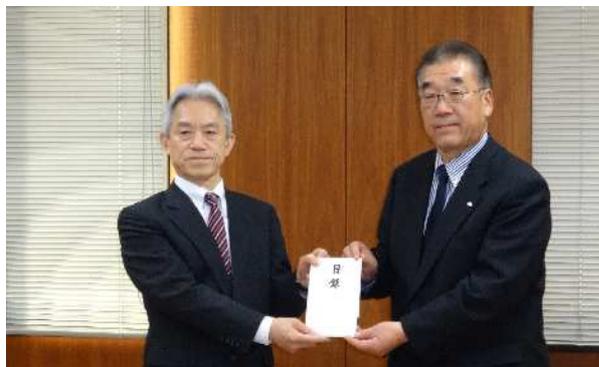
今回、出向の打診があった際、家族の後押しがあった。出向については不安よりも機会を与えられたことに心が動いた。家族が快く自分の意見を尊重してくれたこともあり、頑張ってみようと思った。

■ 町の復興のために

町をゼロから再生していくことが大変なことは十分知っているが、自分は大熊町のために「困難をやりがいに変えて」仕事だけでなく行動に移していきたいと希望を話してくれた。

令和元年台風19号等に係る被災市町村見舞金について

このたびの台風19号等により、亡くなられた方々に対し、深く哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。



左から小松常務理事、当機構 遠藤雄幸理事長

今回の台風被害に際し、当機構としては、発災直後より各市町村からの要望をお受けし、被災箇所の現地調査への同行、復旧方法のアドバイスなど、積極的に人的支援を行うとともに、その後の災害査定資料作成等に対する事業についても、優先的・積極的に取り組んでいます。

こうした取り組みに加え、今般、被災された市町村の一日も早い復興を願い、公益財団法人福島県市町村振興協会（事務局 福島県市長会）が県内被災市町村へ交付する災害見舞金として活用いただくため、2千万円を寄付させていただきました。

贈呈式は令和元年12月24日、福島市内の自治会館特別会議室において行われ、当機構の理事長である遠藤雄幸川内村長が、福島県市長会の小松常務理事に目録を手渡しました。

（企画課 TEL 024-572-6325）

～ 編集者探訪 ～

カステラ、おんぶ（背負うこと）、合羽^{かっば}・・・ご存じの方も多いと思いますが、これらの言葉はポルトガル由来の日本語です。大航海時代、ポルトガルは積極的に海外進出を行い、日本にも活動の幅を広げて南蛮貿易を展開していきました。そして、日本に初めて訪れたヨーロッパ人はポルトガル人だと云われています。

ポルトガルには17の世界遺産があり、そのうちの一つ、アゾレス諸島にあるピコ島が「ブドウ畑文化の景観」として登録されています。

溶岩の割れ目にブドウを植え、周囲を溶岩で積み上げた石垣で囲み、風除けにします。石垣の全長は驚くべきことに、なんと8,000km。

ここで手摘み足踏みして作られたピコ・ワインは、かつてロシア皇帝も愛したほど優れた品質で知られています。

ピコ島への移動はポルトガルの首都リスボンからの直行便、又は近隣の島からフェリーを利用するのが一般的です。

旅の楽しみの一つは「食」。ポルトガル料理は新鮮な魚介を使った料理や米料理も多く、材料を生かした調理法が日本人の口にも合うこと間違いなし。ポルトガルは他のヨーロッパ諸国に比べ食事が安いので、あまりお財布を気にすることはありません。

ポルトガル旅行の際には、大航海時代に思いを馳せ、世界遺産のブドウ畑から製造されたワインと共にポルトガル料理を堪能するのはいかがでしょうか。



ブドウ畑とピコ山

ピコ島基本情報

12月末現在

島の特徴	ポルトガル領 アゾレス諸島第2位の面積を有する成層火山ピコ山(2,351m)はポルトガル最高峰（登頂証明書の発行有り）大西洋の中央部に位置し、かつては王家の避暑地		
島の首府	マダレナ	通貨	1€(ユーロ)=120.65円
人口	1万5千人	主産業	観光業、漁業、ワイン製造等
面積	446km ² (種子島とほぼ同規模)	ポルトガルの首都 リスボンから最短移動時間	約3時間